

阿部石材店が施工致しました「川崎港物故者顕彰碑」に関する記事が神奈川新聞に掲載されました。

「川崎港物故者顕彰碑」に献花する出席者
川崎区の川崎マリエン・広場の森



港発展の功績たたえ

川崎区 東扇島 物故者顕彰碑を除幕

川崎港の発展に尽力して亡くなった人や、港内の労働災害で落命した人者を供養する「川崎港物故者顕彰碑」の除幕式が二十日、川崎市川崎区東扇島の川崎マリエン・広場の森で行われた。顕彰碑は高さ約三・七メートル、中崎港の繁栄は、精励して国産の河北山崎石を使用。碑文は阿部孝夫市長が揮毫し、船の帆をイメージしたデザインになっている。碑の周囲は白御影石を用い、さざ波をかたどった造りを採用して

川崎港の発展に尽力して亡くなった人や、港内の労働災害で落命した人者を供養する「川崎港物故者顕彰碑」の除幕式が二十日、川崎市川崎区東扇島の川崎マリエン・広場の森で行われた。顕彰碑は高さ約三・七メートル、中崎港の繁栄は、精励して国産の河北山崎石を使用。碑文は阿部孝夫市長が揮毫し、船の帆をイメージしたデザインになっている。碑の周囲は白御影石を用い、さざ波をかたどった造りを採用して

除幕式には阿部市長や市議会の矢沢博孝議長をはじめ、関係者約二百人が出席。主催者を代表して川崎港湾福利厚生協会が出席。三浦等理事長が「今日の国際貿易港としての川崎港の繁栄は、精励して尊い生涯を港にささげた港関係者の努力のたまもの。先人の功績をたたえ、ともに、労働災害の絶滅を誓う」とあいさつした。

港湾法の制定で川崎市

が川崎港の港湾管理者になった一九五一年六月から二〇〇六年三月までに亡くなった港湾関係者計八十六人の芳名録が納められた後、出席者が白いカーネーションを献花して殉職、功労者の冥福を祈った。

(大槻 和久)

神奈川新聞

平成18年7月21日(金)掲載